

熱海「陽明館」登録文化財に



熱海の別荘建築の歴史を刻む「陽明館」

文化審答申

海望む開放的な別荘

国の文化審議会は16日、熱海市桃山町の「陽明館」を登録有形文化財(建造物)とするよう文部科学相に答申した。登録されれば、県内の登録有形文化財は2335件、同市内では13件となる。陽明館は昭和初期の19

39年に本州製紙社長を務めた田辺武次氏の別荘として建てられた。木造2階建てで瓦ぶきで建築面積は約157平方メートル。相模灘を望む南向きの山麓にあり、1、2階とも和室2室が開放的にしつらえられ、海の眺めが美しい。

丸太などを使って細部にも意匠を凝らした数寄屋風の造りとなっている。市の担当者によると、熱海の別荘建築の歴史的な価値を有していることが評価されたという。

陽明館は58年から、宗教法人世界救世教の所有となり、同年に改修され、昨年には耐震改修が施された。同教の研修施設などとして利用されてきた。同教広報委員会は「今後は一般公開などを通じて、多くの方に魅力と価値を感じていただけるよう努力する」としている。